

公益社団法人日本天文学会 代議員総会議事録

日 時：2017年3月16日（木） 11:30-12:45

場 所：九州大学伊都キャンパス センター2号館 4F 2404室（福岡県福岡市）

出席代議員：縣、犬塚、太田、櫻井、寺澤、土居、中川、牧島、松下、嶺重、山田、吉田（直紀）、青木、岡村、草野、小久保、柴田、須藤、戸谷、林（左絵子）、馬場、望月、大向、大朝（以上24名）

欠席代議員：佐藤、杉山、林（正彦）、観山、百瀬、相川、奥村、海部、河合、田村、常田、渡部（以上12名）

また、半田副会長、山下・中村庶務理事、柴田・熊谷会計理事、松原監事、坪井研究奨励賞委員長、佐藤年会実行理事、佐藤事務長、黒岩事務員・田口谷事務員が出席した。望月副会長は代議員を兼任している。

I. 確認事項など

議事に先立ち、出席者が24名、議長への委任状が9件、合計33件で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また、市川会長が欠席のため、定款を準用し以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議 長：半田 利弘

署名人：半田 利弘

II. 報告

II-1 理事会（2017年3月15日）報告（山下）

「代議員選挙施行細則」の改正、林忠四郎賞選考委員会委員の追加、衛星設計コンテスト推進委員会委員の交代を代議員総会に諮る。研究奨励賞の内規の改正について議論し、代議員総会で意見を聞くことにした。

II-2 開催中の年会の報告（佐藤）

現在までに、751名登録があり、おおむね順調に進んでいる。年会担当職員の交代があり、予稿集の出版などが通常より遅れたことがあったが、大きなトラブルはなかった。

II-3 日本学術会議天文・宇宙物理分科会の報告（須藤）

2016年度の主な活動について紹介された。マスタープラン2017の作成を行った。第24期・25期の会員・連携会員を推薦した。安全保障と学術に関する検討をしている。1年以上にわたる学術会議検討分科会と総会、部会、公開フォーラムなどの議論を経て、3月の総会で声明案が提案・議論される予定。3月11日、12日に東大で学術会議シンポジウム「天文学・宇宙物理学のさらなる地平を探る」を開き、2050年代に向けて何をすべきかというテーマの議論を行った。

II-4 IAU分科会報告（岡村）

2016年10月20日IAU分科会でIAUシンポジウムの議論があったが、日本人主催のIAUシンポジウム提案が一つもなかった。IAU会員が第3位にもかかわらず、Vice-Presidentなどの候補、IAUシンポジウム開催数も多くなく、IAUの中でのプレゼンンスが高くないのは問題である。IAUジュニアメンバーの創設に関するアンケート調査があった。67か国中、返答37%で賛成89%であった。CAP2018を福岡で開催する。

II-5 研究奨励賞の内規の変更について（坪井）

若い会員の研究レベルの向上に伴い、奨励賞の受賞レベルも継続して向上しており、規則の年齢制限近くで受賞することが多い。35歳で候補者に上がった場合は、最近5年間の規定では29～30歳の業績が考慮されないことになるので、「最近5

年間」という条件を撤廃し、年齢制限のみの内規に修正したいこと改正理由が説明された。最近 5 年間というのは、昔は天文の研究をやっていたが、今はやめているような人を除くためという理由があった、また、指導教員の影響の強い成果を除くという意味もあった。欧文報告賞については、「原則として”最近 5 年間”となっている、などの意見が出た。また、年齢制限は、一度社会に出てから研究を志すもの、事情があってブランクのある人などが排除されるので、何とかそういう人も対象になるように、研究期間で数えられないかなどの要望も出た。これらの意見を反映させ、次回理事会に再提案することとした。

II-6 ジュニアセッションのポスター発表について（望月、佐藤）

春季年会におけるジュニアセッションのポスター会場の掲出方法として、ジュニアセッションのものと一般講演のものが数枚ごとに交互に隣接するように配置された。これについて、年会実行理事より、2種を同一会場で交互に掲出するとの連絡は事前に受けていたが具体的な掲出形態が予想とは異なっており、ジュニアセッション参加者の参加費等の様々な問題が起きうる旨、説明があった。代議員からは、ジュニアセッションへの研究者の参加を促進することは重要であるが研究者と中高生の発表の場を一体化するのは問題であろうとの意見が出された。今後については、会員全体集会にて会員から広く意見を集め、またセッション開催日の会場の様子を勘案し、年会実行委員会とジュニアセッション実行委員会との連絡調整を十分にとった上で進めていくこととなった。

III. 議題

III-1 代議員選挙施行細則改正について（半田）

現行案をもとに最小限の修正にすることによりわかりにくい表現があるので、文言の修正を行って再提案することになった。今回は、案文を事前に回覧することとした。

III-2 推薦委員会委員の決定について（櫻井）

推薦委員会で検討した次期代議員推薦委員会委員として川端弘治氏、高野秀路氏、横山央明氏、井岡邦仁氏、栗木久光氏、早藤麻美氏が提案され、全会一致で承認された。新しく男女共同参画委員会から推薦された女性委員が初めて 1 名含まれることになった。議論の過程で“推薦委員会委員の案の作成プロセスについて理事会の手を経ないものとすべき”、“代議員は本来立候補が基本であるはずなのに、推薦委員会による推薦が主流となってしまったのは望ましくない”との意見があった。次々期以降の推薦委員会委員の決定プロセスは再検討することとなった。

[資料リスト]

- 資料 1 代議員総会出欠表
- 資料 2 前回(2017 年 1 月 8 日)代議員総会議事録確認
- 資料 3 「代議員選挙施行細則」の改正
- 資料 4 推薦委員会の委員候補者
- 資料 5 研究奨励賞の内規変更提案

2017 年 3 月 16 日

議長・署名人：半田 利弘 印